

■ ご挨拶 ■

第73回日本医学放射線学会総会を開催するにあたって



第73回日本医学放射線学会総会 会長
岡山大学
金澤 右

第73回日本医学放射線学会総会(JRS2014)を2014年4月10日(木)から13日(日)にかけてパシフィコ横浜で開催させていただきます。会長として、国内外から多くの皆様にご参加していただくことを大変うれしく思っております。ありがとうございます。

2011年3月11日に起こった未曾有の天災、東日本大震災により、2011年の第70回日本医学放射線学会総会はweb開催という異例な事態にならざるを得ませんでした。しかし、引き続き2012年、2013年の第71回ならびに72回総会は大変な成功裡に終了しました。主管された慶應義塾大学、九州大学の先生方のすばらしい運営能力に、私は改めてわが国の底力、勤勉さを感じました。震災からの回復は、わが国の努力のみならず、もちろん、世界中の皆様からご支援をいただいたからこそであり、世界とともに歩むことの重要性もこの機会に再認識しました。一方、原発問題などのいまだに克服できていない課題が多いことも、放射線科医として、そして国民として認識しなくてはいけないと思っております。

このような慌ただしい昨今のわが国の状況とは別に、放射線科診療は果てしなく進化拡大を続けてきています。それは、もちろん喜ぶべきことなのですが、一方で、放射線科医の意識はともすれば画像やIT機器に埋没しがちになっています。結果、患者さんを心身ともに治してさし上げるという医療の本来的意義を見失う傾向が近年あるように思われます。私は今、「患者さんやそのご家族、一緒に働くメディカルスタッフ、他科の医師たちとの交流の重要性を理解し、病院や地域社会の中での放射線科医の役割と存在を意識し、さらに、世界中の放射線科医と交流できるような広い心、知識、そして行動力を持った若い放射線科医」を私たちの学会活動から育てていくことがとても重要だと感じています。そこで、今回は「Face to Faces, Face to Communities, and Face to the World—向きあう、つながる、そして広がる」をテーマとして大会を開催させていただいております。あの震災が、私たちに教えてくれた人と人、人と地域、日本と世界のつながりの大事さもこのテーマには込められています。

日本医学放射線学会の目指す国際化に鑑みて、学会公用語は今回より日本語と英語の両者となります。会場内の案内は日英併記が従来に比べ増加します。また、スライドやポスター、抄録は100%の英語化がなされました。400題を超える一般演題(口演)については、32%の先生方が口演言語として「英語」を選択くださり、日本医学放射線学会として目指していた「口演発表の30%の英語化」は会員の皆様の自発的な意志により果たすことができました。会長として非常にうれしく、感激しております。海外からの講演に来てくださる先生方は、前回に引き続き30名を超えておりますが、この中には日本医学放射線学会と海外諸国の放射線医学会との交

流に基づいて派遣されてこられる先生方も多くおられます。このような交流が根付くと国際化もさらに推進されると期待しております。一般口演で海外から応募して下さった方々も20名おり、今後はさらに増えていくことを期待したいと思います。そのためには、国内外からの参加者が、ともに違和感なく学会を満喫できるような環境を提供することが大事だと思っております。今回はそのための様々な努力をしておりますが、皆様にそれについてご評価いただき、次回からの開催のお役に立てればと思っております。

総会是最先端の知識・技術を発表し、それを咀嚼吸収する場であると同時に、一年に一回一堂に会する放射線科医たちが、仲間としての共有感を持ちながら心の底から楽しめる場であることも大事だと思っております。学会を運営する立場として、精一杯のホスピタリティを提供し、楽しい企画もご用意して皆様をお待ち申し上げています。ひとつは、4月12日(土)に行うチャリティ企画の「ラン アンド ウォーク」で、春風のそよぐ港横浜の早朝をオリンピックマラソン銀・銅メダリストの有森裕子さん(岡山市出身)と走り、歩いていただく企画です。ぜひ、多くの皆様にご参加いただき、有森さんとともに爽やかな汗を流していただきたいと思っております。また、私の高校時代の同級生で親友の北村晴男弁護士が参加してくれる特別企画「行列のできる医療法律相談所」も4月12日(土)午後に国立大ホールで開催されます。この企画にも多くの皆様にご参加いただけたらと思っております。新たな試みとして、会議センター6階の景色の良いベイブリッジカフェテリアをJRCラウンジとして参加者に開放し、夜はビールやワインも提供することといたしました。本抄録集についても従来とは少し趣の違う体裁とさせていただきますが、いかがでしょうか。

最後に、このたびの総会を開催するに当たっては、誠に多くの方々のご支援ご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

JRS2014をぜひお楽しみください。

第73回日本医学放射線学会総会 実行委員長
佐藤 修平



第73回日本医学放射線学会総会 プログラム委員長
平木 隆夫

